

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について(送付)

このことについて、令和2年度(2020年度)病虫害発生予察注意報第5号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

令和2年度(2020年度)病虫害発生予察注意報第5号

農作物名 イチゴ
病虫害名 アザミウマ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 3月下旬以降
- 3 発生程度 平年比 多
- 4 注意報発表の根拠

- (1) 本年2月からアザミウマ類(主にヒラズハナアザミウマ及びミカンキイロアザミウマ)の発生が多い傾向にある。3月上旬に行った巡回調査においても、寄生株率は17.0%(平年9.7%、前年9.3%)、10株当たりの寄生頭数は3.3頭(平年2.3頭、前年1.3頭)であり、寄生株率・10株当たりの寄生頭数ともに平年及び前年と比較して多かった(図1、2)。
- (2) 福岡管区气象台が3月11日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高い予想であり、多発生することが予想される。

5 防除対策

本害虫は、果実の表面を加害し、外観等の果実品質を低下させる(写真1)。今後、気温の上昇に伴い、施設内での発生が増加するとともに施設外からの飛び込みも多くなり、3月下旬以降の発生が多くなると予想されるため、以下の防除対策を実施する。

(1) 耕種的・物理的防除

- ア 施設内および周辺の雑草は、重要な発生源となるので、開花する前に除草する。また、施設内の観賞用の花き類も撤去する。
- イ 施設内に青色粘着板トラップを設置し、アザミウマ類の密度を低下させる。

(2) 薬剤による防除

- ア 成虫に効果の高い薬剤を中心に使用する。
- イ 多発生した場合は、薬剤の散布間隔を短くし(約5日)、異なる薬剤をローテーションで複数回散布する。
- ウ ハダニ類対策で天敵(カブリダニ類)を放飼している場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。ただし、成虫の発生が多い場合は、アザミウマ類の防除を優先し、アザミウマ類成虫に効果の高い薬剤を選択する。その場合、天敵にも大きく影響するため、散布後のハダニ類の増加に注意する。
- エ 薬剤防除にあたっては、訪花昆虫(ミツバチ等)への影響を考慮し、薬剤を選定する。また、散布日は巣箱を移動させるなどして、危害が出ないように注意する。

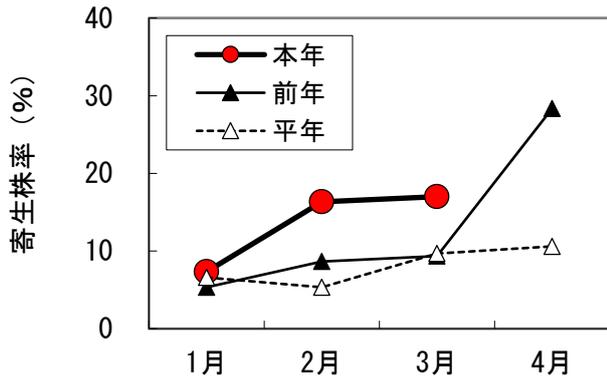


図1 アザミウマ類の寄生株率の推移

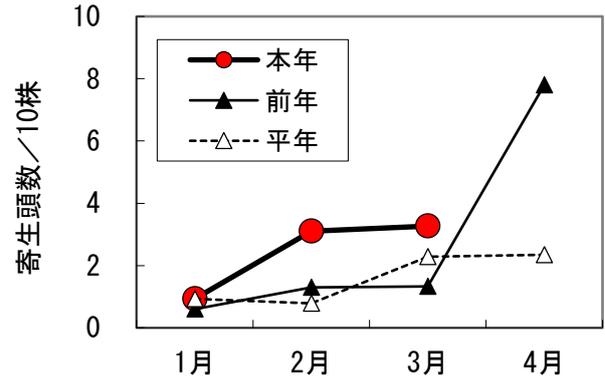


図2 アザミウマ類の寄生頭数の推移



写真1 アザミウマ類の加害による被害果

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)
 担当：丹、中村 TEL：096-248-6490